

2018 夏休みすいせん図書

～本の森へ～

中学生

西東京市図書館



ほのお

かぜ

じよせい

「炎をきりさく風になって－ボストンマラソンをはじめて走った女性ランナー－」

フランシス・ボレットィ 作 クリスティーナ・イー 作 スザンナ・チャップマン 絵 渋谷弘子 訳/汐文社

ポビーは走ることが大好きな女の子。成長するにつれとも友だちは、走ることに興味を持たなくなったが、ポビーのあし足はじっとしてはいられない。

大人になったある日のこと、ポビーはお父さんとボストンマラソンを見に行き、わたしも走りたい、と思った。しかし、このころ女性が長距離を走ることは、認めてもらえなかった。

ポビーは男性に変装し、マラソンに参加することにした。



「わたしの空と五・七・五」

もりの

森埜こみち 作 山田和明 絵/講談社

中学生になった伊藤空良は、みんなが部活の話題でもりあがっているなか、どの部活に入るか決まらない。

そんな時、下駄箱にはいていたチラシが気になって、文芸部の部室をのぞきに行った空良。そのまま入部することになり、句会のための俳句づくりをはじめ。そのなかで、空良は変わっていった。



「Q→A」

草野たき 著/講談社

4月、野崎朝子は、新しい教室に入った。自分が中学三年生だなんて、違和感だらけと思いながら。やがて、新任の山田先生が配ったアンケートには、質問事項が並んでいる。Q1 現在仲のいい友達はいますか？ Aいます。片瀬詩織。(あと、高本雅恵さんとは、これから仲良くなる予定です) あとの方は心のつぶやきだ。

朝子は自分とは正反対の雅恵をひそかにうらやんでいた。



「理科準備室のヴィーナス」

戸森しるこ 著／講談社

ひとみ わたし
人見先生は、私の学年の理科の先生。いつも白衣を着て、髪が長くて、洋風の印象的な顔立ち。そして、結婚していないのに、子どもがいるというウワサがある。私、結城ゆうき瞳と同じ名前の先生。怪我した時に手当てしてくれた、ちょっと変な大人の人見先生を、私は授業中見つめている。そして、もうひとり、同じように先生を見つめる生徒がいることに、私は気づいた。



「骨董通りの幽霊省」

アレックス・シアラー 著 金原瑞人・西本かおる 共訳／竹書房

幽霊省は1792年にできたイギリスの政府機関。幽霊が本当にいるかをつきとめようと、地道に活動が続けてきました。ところがある日、経費削減部のビーストン氏べいすんがたずねてきて、3か月以内に幽霊を見つけないと幽霊省を廃止するといわれます。そこで幽霊省は、幽霊探しのアルバイトを募集することにしました。

幽霊は見つかるのでしょうか。



「パンツ・プロジェクト」

キャット・クラーク 著 三辺律子 訳／あすなる書房

中学校に進学したリヴは、制服のスカートををはきたくない。それは、外見は女でも自分の内側は男だと思っているから。

クラスメイトからのいじめに耐えながら、応援してくれる友達と一緒に、リヴは学校に女子にもズボンの着用を認めさせるための作戦を開始する。

作戦名は、パンツ・プロジェクト！



「ヒトラーと暮らした少年」

ジョン・ボイン 著 原田勝 訳／あすなろ書房

ドイツ人の父とフランス人の母を持つ少年ピエロは、両親を亡くしておばに引きとられた。住んでいたパリを離れ、つれていかれたドイツの山荘の主人は、みなが恐れるドイツの総統アドルフ・ヒトラーだった。権力や強さに憧れるピエロは、ヒトラーと過ごすうちに強いリーダーシップに惹かれ、少しずつ変わってしまう。



「鳥獣戯画を読みとく」

五味文彦 監修／岩崎書店

800年以上昔にかかれた絵巻物、『鳥獣戯画』。うさぎやさるが人のまねをして遊んでいる空想の世界をえがいた「甲巻」や、人間を中心としたユーモアたっぷりの「丁巻」など、全4巻の作品です。生き生きとしたコミカルな絵は、まるで現代のマンガのよう?!想像をかきたてる『鳥獣戯画』の魅力にせまる1冊です。



「人間はだまされる -フェイクニュースを見分けるには-」

三浦準司 著／理論社

世界には情報があふれている。インターネットや、SNSによって、ぼくたちはニュースを受け取るだけでなく、共有したり発信したりするようになった。デマにだまされたり、情報パニックに加担したりしないように、メディアリテラシー（情報を読み解き、活用する力）を身につける方法が分かる1冊だ。

